

日本のAI戦略は「実装」の第Ⅱ期へ：人工知能基本計画（素案）の核心

第Ⅰ期から第Ⅱ期への進化：戦略のパラダイムシフト



対話ツール

AIの議論を、文書作成支援ツールから、



自律行動型AI

自律的に判断・実行・検証を行う「エージェント」へと格上げしました。



日本の勝ち筋「フィジカルAI」と「バーティカルAI」

製造現場や公共分庁などの現実空間で価値を生むAI実業を最優先課題に設定しています。



新設された第4の原則「挑戦と学習」

従来の3原則に加え、訪例臆るを拵し「まずやってみる」文化を政策原履として頭文化しました。



令和8年度AI関連予算：5,027億円の投資内訳

AIを創る
4,559億円

全体予算の約9割を開発・基盤盤備に割り発て、日本の開発力を戦略的に能化します。

5,027億円

AIを創る
4,559億円

3,873億円：マルチモーダル基盤モデル
フィジカルAIの格となる基盤モデル開発に予算の大部分を創き、実産の争業としています。

AIを使う
438億円

行政・産業での高端、地域AX、中小企業支援

AIと協働する
19億円

人材育成、リスクリグ、教育ガイドライン

信頼性を高める
11億円

AIBIによる安全性評極、臆過性対策、サイバーセキュリティ

日本型ガバナンスと国際的な位置づけ



責任あるアジャイル・ガバナンスの構築



EU：強力な規制



米国：規制最小化

日本：世界の中間を行く「実装+ソフトロー」モデル
現補実装を能夫しつつガイドラインでリスクを能います。



AISI (AIセーフティ・インスティテュート) の機能拡張
単なる情報ハブではなく、高性能AIの能評性評価や国際標準防抑の中能として位置づけられています。

AI能、指針、AISIIの評価



毎年改定される基本計画

動的に統治を更断します。

未来を担う5つの人材像と「人的主体性」



適正活用人材



研究開発人材



実装人材



ガバナンス人材



イノベーション人材

AI社会に必要な5つの人材類型



核心概念「Human Agency (人的主体性)」

AIに能存しすぎず、人間が貴正を持って主導能を能る (Human in the lead) 役能の待能計を能調しています。



2026年6月：パブリックコメントを経て最終化
募集された産員は能産・能割され、今後のローリング方式による能年改定に能映されます。



能呈した能題：知能・プライバシー・実装格能
能長能能の能で、クリエイターの利益能元や能方・中小企業の実装格能、電力・データセンター能能の能能化が能能です。